

# ある群像

2016年6月号

公益社団法人 好善社

東京都目黒区中町1-7-4

〒153-0065

電話：03-3712-3845

Fax：03-3791-1150

2016年5月25日

発行 三吉信彦

編集 長尾文雄



駿河療養所 富士山を背景にした第2センター (撮影・川崎正明)

## 「らい予防法」廃止二〇年

一九九六年「らい予防法」が廃止されて二〇年が経過しました。

その後提起された「国家賠償請求訴訟」、続く国による「検証作業」の実施、「最後のひとりまで面倒をみる」という国の約束を実現させるための「ハンセン病基本法」の制定と、関係者の営々とした努力によってハンセン病問題の現在が切り拓かれてきました。元患者への賠償・補償は行われはしたものの、いわゆる療養所の「将来構想」の具体化はなかなか進みません。

そうした中、なお残された問題として、患者家族の問題、かつての特別法廷の問題がクローズアップされてきました。ハンセン病問題の一番の根っこが問題になってきたと言ってよいでしょう。

この問題の解決は、ハンセン病問題だけでなく、私たちの社会にあるあらゆる差別・偏見問題に解決を与えるものとして極めて重要な意味をもっています。

その展開に、注意を怠らず、ともに見守ってゆきたいものです。

代表理事・三吉信彦

## 入所者の 「いま」を聴く <5>

人生の終焉は、全ての人に必ず訪れます。ハンセン病を病んだが故に、重い人生被害を受けてこられた入所者が、「いま」をどのように心の内に留めておられるかを聴かせていただきました。今回は第5回目のインタビューです。

(聞き手=川崎正明)

今回は、静岡県御殿場市にある駿河療養所の上野忠昭(つえの・ただあき)さんにお話しを伺いました。

—最近のお身体の調子はいかがですか。  
上野 透析が週三回になって、今はあまりよくありません。もうギリギリですね。透析をやると目や体に痛むところが出たり、血圧が下がったりでも無理がきかれません。  
—透析の一回の時間はどれ程ですか。  
上野 三時間半ですが、それ以上は体がもちません。



—いま何歳ですか。教会の礼拝は毎回出席できるのですか。

上野 二月一七日で八五歳になりました。礼拝出席はそのつもりでいるのですが、先般はお腹をこわして行けませんでした。今年になって二回です。

—上野さんは、礼拝を非常に大事にしておられると聞きました。お話しは聞けるのですか？

上野 三分の二くらいは聞こえています。礼拝出席は、せめてそれくらいしかできないものですから。

—週に透析を三回、目が見えない、耳が聞こえにくいというお身体は大変ですね。

上野 目が悪いとか耳が聞こえないのはあまり大変だと思わないけど、ただこの頃は身体のおちこちが痛いとか足がだるいのが辛いです。

—さきほど八五歳と言われましたが、人生はまだまだ続きます。

上野 いや、八五歳で終わりにせなあかんですね。もう無理ですね(笑い)。一年ほど前から目が見えなくなりまして。目が痛い時は薬を飲みますが、合うのと合わないのがあって、あとは我慢です。

—透析に行かれる時以外は、毎日どんな生活ですか。夜は眠れますか。

上野 目も耳も不自由になったので、ベッドの上で考えたりしています。最近は案外眠れています。しかし、眠れないと言っても、昼寝で夜寝て考えているのだから一緒です。

—病棟の職員さんは親切ですね。

上野 みなさん、よくやってくれます。私は甘えん坊だから特別にお世話

になっていきます。外の病院では考えられないと思います。

—この療養所にある神山(こうやま)教会は、かつてはいろいろ大変な時期があったようですが、今はどうですか。

上野 礼拝説教は外の先生にお願いしています。入所者で集まるのは三人ですが、役員の加藤健さんが一生懸命やってくださっており感謝しています。私も体調の悪い時以外は頑張っております。

—一生懸命に礼拝に出られる上野さんのお姿とその信仰に励まされます。今日の礼拝での上野さんのお祈りには感動しました。

上野 神様に対する私たちの罪は、いくら体を低くして謝っても赦されるような生易しいものではないとつくづく思います。その罪を赦し、イエス様が死んでくださったことを感謝しなければならぬと思います。

—上野さんにはたくさんのお友達があると伺いますが。

上野 好善社では乗圭子さんが度々来てくださいますが、棟居先生、藤井征子さん、山本公子さん、加藤裕司夫妻、藤田裕香子さんも来てくださいます。

—今日はどうもお疲れさまでした。

上野 ふたたびお会いできるどうか分からないけれど、毎日覚えて祈っています。またぜひ来てください。

—ありがとうございます。好善社は、いつも上野さんのことをお祈りしています。

(写真Ⅱメガホンを用いて上野さんに話しかける。取材・2016年2月21日)

# 140年の歴史を引き継ぐ・・・代表理事の交代

公益社団法人 好善社



## 新しいビジョンで

新代表理事

三吉 信彦

代表理事に選任された三吉です。私は1980年の栗生楽泉園ワークキャンプに参加して以来、キャンプリーダーや国内療養所訪問を続けてきました。1990年以降はタイ国担当として、姉妹団体チャントミット社の支援、青少年ワークキャンプの指導にあたってきました。今や70歳を超えた身となりましたが、同僚の社員、若いキャンパーたちの協力を得て職責を果たしたく願っています。

私に課せられた任務は、これまでの事業を継続することに加え、三つのことを考えます。

① 当社創立140周年を迎えるにあたり歴史編纂の課題を果たす。② 当社活動の基盤である「ワークキャンプ」の総括と、若いキャンパーたちをハンセン病問題の「語り部」として育成する。③ 当社の姉妹団体であるタイ国チャントミット社との協力を得て、タイ周辺国への支援を模索する。

以上、新しいビジョンを掲げて、全力を尽くす所存です。

よろしくお願いたします。



## 若い世代に期待して

前代表理事

棟居 勇

この度の理事改選に伴い、代表理事を退任いたしました。17年間、皆さまのお支えをいただいて重い責任を全うすることができ、心からお礼申し上げます。

1998年11月の藤原偉作前理事長の急逝により、理事長に就任しました。

理事長となって私が努めたことは、藤原前理事長の路線を忠実に継承すること、そして、社員みなぎ協力して、好善社の事業を担い、進めることでした。

この基本路線に従って、国内では療養所訪問、海外事業ではタイ国への看護師派遣、姉妹団体チャントミット社への協力が柱たる事業であり、双方ともほぼ順調に実施してことができました。

しかし、現状維持から抜け出て、さらに積極的に当社事業のこれからを創出していくためには、新しい代表理事のもとで、若い世代の力の結集を図ることが望ましいと判断し、この度の代表理事交代となりました。今後の好善社にご期待ください。

## 胎動しはじめた 若い力

タイ国青少年ワークキャンプを重ねる中で、若いリーダーたちが育ってきています。これからのタイ国だけではなく、国内のハンセン病療養所とのかかわりを展望する座談会の記録です。

日時:2016年2月11日(木)

11時~15時

場所:日本キリスト教団

千葉教会

出席者:渡辺圭一郎(社員・牧師)

下村太郎(会社員)

宇田美幸(保健所事務)

田島美幸(幼稚園教諭)

三吉友恵(教区事務)

寒河江健(牧師)

司 会:三吉信彦(理事・牧師)

### タイ国青少年ワークキャンプ

好善社とタイ国の姉妹団体チャントミット社との共催で、タイ国のハンセン病療養所で、2005年から実施され、今年の開催で第12回となる。

主な目的は、労働を共にすることで、日本・タイ両国の若者がハンセン病への理解を深め、若者同士の交流の機会とすることである。

**司会** 今日にはワークキャンプのリーダー会に集まってくださって感謝いたします。まずは、皆さんの近況報告から話していただきます。

### 《近況報告》

**渡辺** 私は二〇一五年五月に好善社に入社しました。それは、タイ国青少年ワークキャンプの体験が大きな契機になっていきます。このキャンプには、リーダーの自覚をもってワークに取り組み、私の関係する教会や幼稚園への働きかけをしたいと思っています。

**下村** この一月に三吉理事とチャントミット社年次総会へ出席しました。昨夏は駿河療養所を訪問しました。ワークキャンプの改善のためには、日本人キャンパーから声を上げていく必要があると考えています。

**宇田** 今年度、私はワークキャンプとタイでのリユニオンに参加しました。そして、多磨全生園、宮古南静園に出かけ、国内療養所教会の実情を知り、高齢の会員の方々と懇談して、私に何がで



ワーク中の渡辺さん

きるかを考えさせられました。

(注・リユニオンはキャンパーが後日、集まり、交流とふりかえりをする会)

**田島** 私は、タイ・リユニオンに参加し、駿河療養所、多磨全生園と宮古南晴園を訪問することができました。高齢の入所者の願いにどう応えたら良いか考えたいと思っています。そして、タイでのワークキャンプ実施のために若い仲間とリーダー会を組織しようとして願っていました。今回実現したことを喜んでいきます。

**三吉** 私は、高の原教会の女性三名と大島青松園・霊交会の礼拝に出席しました。今後、霊交会の日曜礼拝は、諸般



右:下村さん

の事情で中止となり、あとは不定期の集会になると聞いて複雑な想いです。また、駿河療養所を訪問しました。日・タイの療養所のことを家族や教会に働きかけたいと思っています。

**寒河江** 駿河療養所と近隣の教会を訪問、タイ・リユニオンにも参加しました。多磨全生園・秋津教会礼拝の奉仕もさせていただきました。青年たちと国内療養所を積極的に訪問しようと思っています。タイのワークキャンプの計画実施段階には、若いキャンパーが積極的役割を担うべきであろうと考えています。



## リーダー会の協議記録

### 《二〇一六年度 第二回タイ国 青少年ワークキャンプ》

日時：一月三日〜八日または九日  
※ワークは五日〜七日(土・日・月)  
場所：未定

☆前回の参加者は合計約九〇名と多すぎた。ワークの趣旨をタイ、オーストラリアチームにしっかりと伝えたい。  
(注・このキャンプには、オーストラリアの青年も参加している)

☆リピーターも大事だが、新規参加者の開拓も必要。新規参加者募集に当たって、チラシ・ポスター等の工夫が必要。早い段階から、諸教会、キリスト教学校などに広報することしたい。

☆話し合いの結果、役割分担を決めた。

### 《二〇一六年度 活動計画》

☆好善社講演会 関東、関西の講演会への参加をできるだけ多くのキャンパーに呼びかける。

☆国内療養所訪問 宮古南静園訪問

日程：八月のいずれかの週、三日間を予定。現地集合。

人数は一〇人程度。

スケジュール計画：宇田・田島担当  
費用に関しては、好善社から若干の



右:三吉さん



右:寒河江さん



司会の三吉さん



宮古南晴園入所者と左:田島さん・右:宇田さん

援助を要請する。

### 《リユニオン》

☆二〇一六年度は日本で開催予定。

ワークキャンプが十一月、従ってリユニオンは十二月二十五日以降の日程が望ましい。開催場所は、願わくはいずれかの国内療養所で。教会であれば、香里ヶ丘教会か高の原教会で。

### 《個人の国内療養所訪問計画》

☆個人で計画する訪問も、互いに情報を共有したいので、計画段階で呼びかけ合う。

### 《その他》

☆ワークキャンプ参加者に対して丁寧に準備をする必要がある。講演会ブックレットなどを用いて事前学習をすること。

☆講演会ブックレットの読書会開催はどうか。一般の教会員にも関心を持ってもらえる。手始めに、今年は高の原で計画したい。

☆一般教会員・賛助会員向けのタイ国研修ツアーを計画するのはどうか。

### 《好善社社員、賛助会員のチャンタ ミット社年次総会参加について》

☆例年一月下旬に開催されるチャンタミット社年次総会に、理事と共に青年リーダーが一人ずつ同行するのはどうか。チャンタミット社やワーク

キャンプなどの情報を共有する機会となる。

### ■終わりに、三吉理事の感想

昨年ころからキャンパーたちに新しい動きが見えて来た。そのきっかけが二〇一四年九月、日本で行われたリユニオンに、タイ人リーダー数人を招いて、国内療養所を案内してしっかりと話し合いの時をもったことであった。これはチャンタミット社にとっても刺激となったし、日本の青年リーダーたちにもよいきっかけとなった。昨年一月にはタイ国でリユニオンを開催し、日本側の青年たち三人も参加した。帰国後、彼らの主導で幾つかの国内療養所の訪問となった。その空気が以上の報告にも現れている。この青年リーダーたちの積極的な動きを歓迎したい。そして、好善社の新しい活動を担う若者の胎動に期待を寄せたい。

キャンパーたちのその後

## 私を支える原点に

好善社社員 藤井征子



藤井征子さん

私は今年七十二歳になります。この年まで生かされてきたことを神に感謝し、今私がハンセン病療養所とどう関わっているかを、書こうと思います。

### ●ハンセン病との関わり

一九歳の時、好善社主催のワークキャンプに参加して以来、ハンセン病療養所との関わりは半世紀を越えました。

今私は時々療養所を友人と訪ねたり、教会その他の集まりでハンセン病について話しています。

### ●与えられた場で

先日は、所属している電話相談団体で映画「あん」の上映会があり、五〇人以上の参加者がありました。

上映前に上映を企画された数十人の人に、ハンセン病の歴史や現状について話をしました。そして上映当日には、ハンセン病のことを「まず知ることから始めてください」という主旨の文を上映会場に提示してもらいました。

### ●交流を広げる

また市民学会で知りあった療養所で暮らしている人と文通をしています。一人の人間として言葉をかわしあう幸せを感じています。

これまでの私の人生において、他の

人と同じように多くの人と出会い、教えられ、学ばされ、わが身を反省したり、挫折したりと、たくさん経験をしてきました。

### ●様々な生き方に出会う

五年前に小さな集まりを立ち上げて、毎月カフェやいろいろな催しをします。そこで出会った人たちそれぞれの長い月日の積み重ねが、その人一人ひとりの人となりや、生き方の傾向を形づくってきたことを痛感させられています。

### ●私を支える原点に

翻つて私自身のことを思う時、これ迄の私の生き方を支えていたものは、若い日の療養所でのワークキャンプとその後に関わりだとしみじみ思わされています。私の奥深くにあるもの、そこから出てそこへ還っていくもの、それはハンセン病療養所との関わり、そこに暮らす（暮らさざるをえない）人たちとの関わりだと。

私の人生を奥底で支え、人と関わっていく時のありようや原点になっていくのです。

これからも、この原点を胸に歩んでいきたいと願っています。

## 本の紹介

川崎正明著（好善社理事）

『かわらなければ』

『路傍の人』を読む

著者は、一九八七年二月、初めて塔和子さんと出会う。何気なく読んだ大島青松園自治会発行の機関誌「青松」の中の詩「胸の泉に」に衝撃を受ける。「ああ／何億の人がいようと／かわらなければ路傍の人／私の胸の泉に／枯れ葉いちまいも／落としてはくれない」

その六行が著者の歩みを支配する。「かわらなければ路傍の人」のフレーズが頭の中を駆け巡る。その後、「塔和子の会」代表としてかかわり続け、交わした手紙と度々の訪問。「先生、帰れ！」の叫びから「帰らないで！」の笑顔。牧師として祈り、読者として塔さんの詩作を見守る。いのちの根源を見つめ、苦難を乗り越えて、愛が一杯に描かれていることへの筆者の共感の姿。

閉ざされた暗黒の世界から放たれた一条の光のような世界をみごとに纏めあげた詩人・塔和子の世界を是非味わっていただきたい。

（朝倉秀之・好善社理事）



編集工房ノア発行  
2016年2月10日  
定価 2000円＋税

## 好善社短信

### ◆ 代表理事交代

五月四日開催の当社定時総会における理事・監事改選に伴い、一七年間理事長（代表理事）を務めた棟居勇が退任し、代わって三吉信彦が代表理事となりました。これまで同様、お引き立てくださいますように。三頁の新旧代表理事の挨拶をご覧ください。

### ◆ 一〇〇周年以降の歴史の編纂計画

創立一四〇周年を記念する来年を控え、一〇〇周年以降の歴史の編纂作業がそのままになっていることから、編纂計画を立て、その実現に向けて作業を始めました。

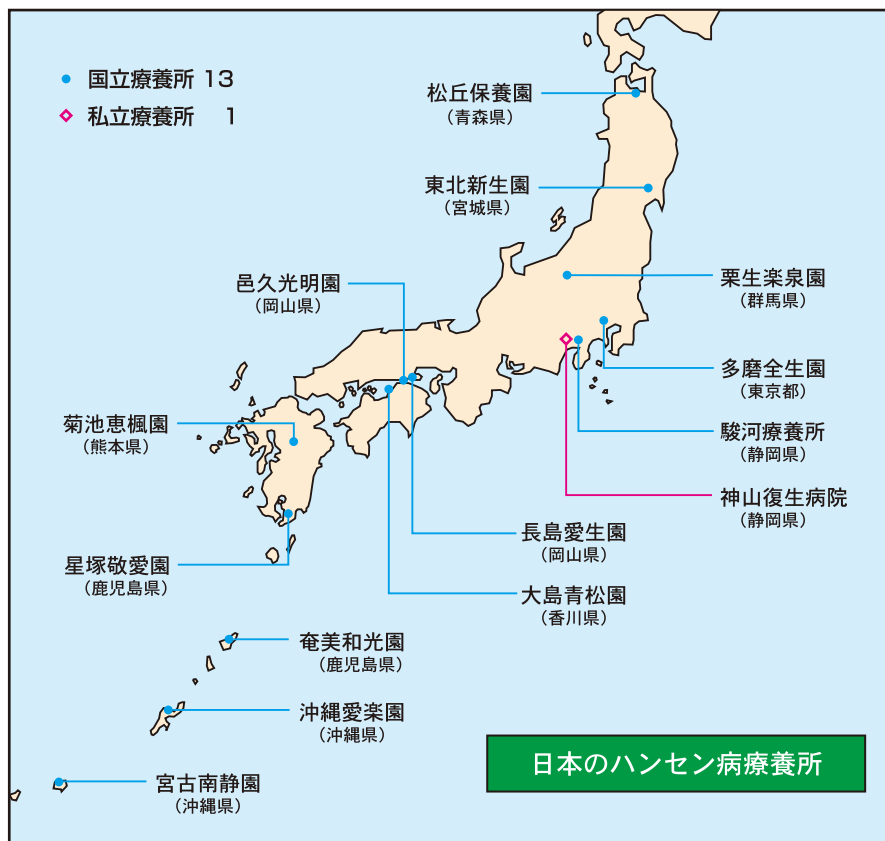
## 日本の入所者を中心とした基金 「タイ国ハンセン病施設教育基金」

2015年度送金額	946,684円
2016年3月末 基金現在高	1,385,167円
2002年～2016年3月末 基金献金総額	18,892,922円
2003年度～2016年度 基金送金総額	17,507,755円
	(延べ奨学生数777名)

- 同基金は2002年に創設され、タイ国のハンセン病コロニーで生活する子どもたちと働き手の教育・研修を支援するためのものです。
- 同基金への寄付はいつでも受け付けています。

### 国立療養所 入所者数 2015年12月31日現在

	男	女	計
松丘保養園	38	53	91
東北新生園	31	45	76
栗生楽泉園	41	46	87
多磨全生園	95	102	197
駿河療養所	33	30	63
長島愛生園	116	97	213
邑久光明園	55	68	123
大島青松園	35	30	65
菊池恵楓園	123	154	277
星塚敬愛園	71	87	158
奄美和光園	16	18	34
沖縄愛楽園	88	89	177
宮古南静園	38	32	70
15年12月計	780	851	1631
14年12月計	854	904	1758
前回比	-74	-53	-127



2015/12<好善社調べ

6月・夏期募金のお願い

国内とタイ国のハンセン病に関わる好善社を支援してください！

2016年度募金（会費・寄付）目標額 1,000万円



高齢者ケアをする阿部さん

タイ国ハンセン病支援事業  
阿部看護師の活動と  
タイのハンセン病事業支援のために  
毎年746万円が必要です。

チャンタミット社は、ハンセン病コロニーの  
高齢となり不自由度のました元患者を支援する  
活動をおこなっています。

国内ハンセン病支援事業

- ・療養所訪問・交流活動  
入所者の思いの傍らに身を置くために。
- ・講演会・出版・啓発活動  
元患者・入所者のいのちの尊厳と名誉回復のために。  
ハンセン病問題の早期解決と「療養所の将来構想」の実現を願って。

タイ国のハンセン病に関わって

1982年以來、好善社はタイに関わり、阿部春代理事（看護師）を25年間派遣するとともに、1987年タイに設立された姉妹団体チャンタミット社（ハンセン病関係NGO）への財政支援・人的交流を続けています。

ハンセン病問題の今

日本国内ハンセン病療養所は、2015年12月現在入所者数1631名となり、平均年齢は84歳。急速な高齢化です。

ハンセン病問題は、「らい予防法」廃止20年を迎え、その間、「国家賠償請求訴訟」勝訴・「ハンセン病問題基本法」の施行・「療養所の将来構想」など解決に向かっているかのように見えますが、いまだ「特別法廷」「元患者家族の賠償訴訟」など、十分な解決をみていません。

2016年度収支予算（抜粋・単位円）

療養所訪問・広報宣伝費	4,180,000
タイ国支援事業・チャンタミット社支援	1,750,000
・看護師派遣	3,850,000
・現地調査・交流費	1,800,000
事業運営費	7,850,000
収入 会費 ほか	4,814,000
雑収入 ほか	50,000
寄付	7,500,000

2016年6月25日

公益社団法人 好善社 代表理事 三吉信彦  
理事 棟居 勇 朝倉秀之 川崎正明  
加藤裕司 阿部春代 乗 圭子  
本行輝雄